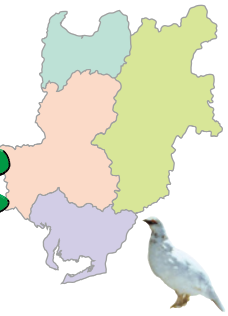
国民の森林・国有林
林野庁
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

広報 中部の森林（もり）



蝶ヶ岳より、雲海よりの御来光　【中信署提供】

主な項目

○ 中部森林管理局　新島局長　年頭所感 …… P2
○ 各地からのたより …… P4
○ 2017年主な出来事 …… P6
○ シリーズ「森林官からの便り」 …… P11
○ シリーズ「ご当地自慢」 …… P12

平成三十年　年頭所感

中部森林管理局長　新島俊哉

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、我が国の森林資源は、戦後造成された人工林を中心に充実し、本格的な利用期を迎えております。このこと自体は喜ばしいことではあるのですが、昭和二十～三十年代、台風等により幾度も発生した大惨事を繰り返さないためにも、森林が環境財であることを忘れず、木材の販売により再造林経費が森林所有者にしっかり還元され、確実に再造林されることが必要です。

企業特別会計から一般会計に移行して今年で六年目を迎える中部森林管理局としては、公益的機能の一層の発揮のため、山の声を聞き、山とよく相談しながら、多様な森林に誘導する取組を進めてまいります。また、徹底的なコスト縮減や、最も森林所有者への還元が大きい製材等に使われる木材（いわゆるＡ材）をいかに高く買ってもらうか、といった民国共通の課題解決に向け、伐採・造林一貫作業システムの推進など無地拵え・無下刈りを目指した各種取組や、ニホンジカ被害対策、林業事業体の生産性向上、Ａ材のブランド化などに率先してリスクをとって取り組み、その成果は民有林の方々に普及しているところです。

特に、Ａ材については、フェアトレードのように高くても消費者に買っていただけるよう、山から最終消費者まで一気通貫の供給体制を作り上げ、その上で環境財としてのストーリーを組み立て、高齢級になる程、価値が上がるような販売戦略を立てることが重要です。これにより、森林所有者に再造林経費が還元されるとともに、長伐期施業に対する意欲が喚起され、齢級構成の平準化が促進されるという効果が期待できます。この対応として、昨年開始したのが「信州プレミアムカラマツ」であり、長野県の民有林の方々と連携して推進しているところですが、本年は更に、岐阜県と愛知県の人工林ヒノキにおいてもこのような取組に着手する考えです。

また、国有林は観光資源としてだけではなく、職員は様々な地域で勤務をする機会があるため、地域の方々では気がつかない「外」から見た地域の魅力をお伝えできるスタッフとしても、地域関係者の皆様にお力添えが出来ればと考えています。

地域の安全・安心という観点で申し上げますと、平成二十九年七月九州北部豪雨では二十四時間雨量が三万五千年確率降雨というように、これまでに経験したことの無い雨がいつ、どこで降ってもおかしくない状況にあります。このため、当局では、国有林の有無にかかわらず、山地災害が発生した初動段階において、森林土木技術者等で編成する「山地災害対応チーム（ＭＤＳＡＴ）」を被災自治体へ派遣するなど、引き続き、早期復旧に向けた迅速かつ積極的な対応を行ってまいる考えです。

広報「中部の森林」では、このような取組をわかりやすく皆様に発信してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

結びに、皆様方の今年一年間のご多幸とご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

今年の干支は、戌（いぬ）

戌をもっと詳しくいいますと「戊戌」です。「つちのえいぬ・ぼじゅつ」と読みます。干支十二支のなかで三十五番目になります。

戊戌は、十干の戊は陽の土、十二支の戌は陽の土で、比和となるとのこと。比和とは、同じ気が盛んになるとのいう意味で、結果が良い場合は更に良くなりますが、悪いと更に悪くなるとのことです。今年は、明暗の分かれる年になるかも知れません。

戌年生まれの方の性格は、我慢強く人情深い。人から受けた恩や義理を決して忘れず、きちんと返そうとします。外見はやや派手に見えることもありますが、一途で真面目な性格。堅実に物事を進めます。反面ストレスをうまく発散できず、頑固な面があるといわれています。

戌年生まれの有名人をあげますと、歴史上では、平清盛、木曾義仲、北条氏政、加藤清正など、一九二二（96歳）：内海桂子、一九三四（84歳）：財津一郎、司洋子、一九四六（72歳）堺正章、西川きよし、一九五八（60歳）久本雅美、森晶子、一九七〇（48歳）中山美穂、岡村隆史、一九八二（36歳）深田恭子、真木よう子、一九九四（24歳）山崎賢人、二階堂ふみ、といった方々がいます。

平成三十年が、明暗の明のみが際立ち、平和で穏やかな良い年になることを願っております。

長野市在住
名前は「きなこ」

木曽三川と堀川上下流交流会を開催

【名古屋事務所】十一月二十五日、名古屋市内で、第十一回木曽三川と堀川・上下流を繋ぐ交流会（主催：木曽三川がつなぐ山とまちインターネットフォーラム実行委員会、堀川一、〇〇〇人調査隊）が開催されました。

このイベントは伊勢湾に注ぐ木曽三川の恵みを受ける流域の人たちと事業を通じて相互交流を深めるとともに、水の大切さ、環境保全、地域の繋がりについて理解を深めることを目的に行われています。

当日は、上流地域（木曽地域）から六十六名、下流域（名古屋市周辺）から三十七名の一般参加者及び行政の担当者が参加しました。

「熱田白鳥の歴史館」での説明の様子

木曽地域からの参加者の中には「かしき（炊事手）として四年間山に居た」といった方や「営林署に四十年勤めた」といった方もいました。

名古屋に着いた一行は、「熱田白鳥の歴史館」（名古屋事務所）で木曽地域と名古屋が木曽川によって江戸時代から結ばれていた話や、白鳥貯木場の歴史の説明を写真・映像を交えて木島副所長から受けました。

その後、白鳥庭園の散策、堀川を熱田白鳥から朝日橋（名古屋城近く）までクルージング、名古屋城・名古屋城本丸御殿を見学後、意見交換会が行われました。

意見交換会では、上流下流側の参加者から上下流交流の大切さや交流会の感想が述べられた後に、上流側からは貴舟大桑村長、下流側からは新開名古屋市副市長から、上下流交流の重要性についての挨拶があり、参加者による記念撮影を行い終了しました。

参加者全員による記念撮影

「熱田白鳥の歴史館」の感想では「木曽と名古屋の繋がりについて学べた」「先人の努力・工夫に重みを感じた」「懐かしさを感じた」などの声が聞かれました。

名古屋事務所では、下流側における行政等と連携したイベントに協力することによる、森林、林業、木材利用の推進に引き続き取り組むこととしています。

森林総合監理士等 連携会議を開催

【技術普及課、木曽森林管理署】民有林・国有林の森林総合監理士や中部ブロック准フォレスター研修及び技術者育成研修修了生等の活動支援の一環として、技術の習得や資質の向上を図るため、十一月二十一日、二十二日、森林総合監理士等連携会議を、中部ブロック四県（長野、岐阜、愛知、滋賀）の民有林関係者十五名、中部森林管理局職員十七名の参加により開催しました。

今年度は長野県との共催により長野県木曽町、木祖村等で、民有林と国有林が一体となって効率的な森林施業を推進するための重要な取組である「民国連携した森林共同施業団地」をテーマに、木材供給・販売、森林経営計画などについて意見交換や現地視察等を行いました。

一日目の全体会議では、中部局担当者から森林共同施業団地の設定目的について説明があり、引き続き木曽署及び長野県木曽地域振興局林務課の担当者から木曽谷流域における森林整備推進協定の取

組と課題について報告がありました。報告では、森林整備協定は木曽谷森林計画区全域を対象として、森林共同施業団地を七団地設定し、路網の連結や国有林土場をストックヤードとして活用していることや、団地設定しているがまだ連携した施業が行われていない団地もある等の課題も報告されました。

これらの報告も踏まえ、森林共同施業団地の課題や日頃感じていることをグループに分かれて討論し、その課題解決に向けた検討結果を情報共有しました。グループ討議の中では、団地化によるメリットが見えにくい、民国連携したシステム販売をもっと推進すべき等、様々な意見が出されました。

二日目は木曽官材市売協同組合の荻原土場において、信州プレミアムカラマツや木曽ヒノキの原木を見ながら協同組合における木曽谷流域の木材販売状況について説明を受けました。

その後、国有林土場をストックヤードとして活用している薮原土場で、民国連携した安定供給システム販売による木曽谷カラマツの流通状況等の説明を受けると共に、木曽森林組合から地元木祖村の森林共同施業団地で取り組んでいる森林経営計画の策定及び実施状況について説明を受け日程を終了しました。

薮原土場で参加者集合写真

二日間を通して参加者からは「森林共同施業団地での取組実例や課題を共有できたことは有意義だった」「民国双方の地図情報や木材販売等の情報共有が重要だと感じた」などの意見が聞かれ、森林共同施業団地での取組が推進されることが期待できました。

今後も民有林・国有林の森林総合監理士等のフォローアップのために、本会議を継続して開催していく予定です。

各地からのたより

「一〇〇年先の森林づくり」発表会を開催

【岐阜署】十一月十六日、下呂市内で「一〇〇年先の森林づくり発表会」を開催しました。

この発表会は岐阜県が一〇〇年先の森林づくりに取り組み始めたことを契機に、地域の人たちへ森林・林業を普及啓発する目的で企画したもので、国、県、市の共催で開催するのは岐阜県で初めての取組です。

発表者は市内の小学生から専門家まで、それぞれの視点で森林・林業に関わる取組を発表しました。小学生は楽器などを使って元気良く学習内容を発表し、農林高校生はスイスのフォレスターから学んだ育成木施業や演習林の木で家を建てる取組などを発表しました。

森林組合は森林施業プランナーの役割、観光団体は国有林（御嶽山麓）の滝めぐり、県の水産研究所は川魚の生息に森林は欠かせない存在であることを紹介しました。

国、県、市の行政機関からはそれぞれ最も力を入れている取組を紹介し、最後は特別講演として林材ライターの赤堀楠雄さんから今後の林業や木材生産の目指す方向性について提言をいただきました。

開催にあたり新聞、市広報、HP、ケーブルテレビに出演するなどして参加を呼びかけ、会場の定員一三〇人を上回る一五七人の方にご来場いただきました。また、発表会の様子はNHK、新聞、ケーブルテレビで紹介され、より多くの人たちに広報できたことは成果があったと考えています。

今回の発表会の反省を踏まえ、今後も積極的に国民に森林・林業をわかりやすく紹介する取組を進めます。

100年先の森林づくり発表会の様子

ケーススタディ地区勉強会を開催

【岐阜署】十一月十七日、ケーススタディ（※）地区の七宗町上麻生地区森林共同施業団地において、林業の成長産業化に向けた関係機関合同の勉強会を開催しました。

全国の林業・木材分野に知見のある林材ライターの赤堀楠雄さんを講師に招き、「林業におけるブランド化とは」と題して講演及び意見交換を行いました。赤堀さんからは公益的機能を重視した森林整備で良い山を造るだけでは良い木はできない。間伐材だから地域材だからで売り込むのではなく、商品で評価されるモノづくりを行うべき。住宅は生涯に何回も建てない。家を建てることで木の良さを知ってもらい、消費者の木への関心を高めること。需要拡大から消費機会拡大につなげる取組が大切だと講演されました。

その後はケーススタディ地区内のシカ対策試験地について森林技術・支援センターの三村森林技術普及専門官から説明を受け、森林共同施業団地（現地）へ移動して、民国連携で開設した林業専用道、協調出荷土場、民・国有林の間伐事業地を見ながら意見交換を行いました。

勉強会は民有林と国有林の連携強化、木材生産に関する職員の意識向上につながったほか、国有林だけでなく民有林へ

も事例研究の実施を呼びかけました。引き続きケーススタディ地区の取組を推進していきます。

※国の森林総合監理士等が市町村への協力を推進するための事例研究

ケーススタディ地区勉強会

日独林業シンポジウム2017 特別セミナー「獣害対策担い手分科会」開催

【岐阜署】十一月九日、日独林業シンポジウム2017の特別セミナーとして、「獣害対策担い手分科会」が、岐阜県立森林文化アカデミーにて八十名が参加し開催されました。

この分科会は、ニホンジカ等による獣害被害が拡大し森林生態系への影響が懸念される岐阜県において、フォレスターの必須科目として狩猟教育が位置づけられているドイツの現状を参考に、誰が獣害対策を担うのか、また、その人材の育成のあり方等について考えることを目的に開催されました。

最初に、ドイツロッテンブルク林業大学のワーゲラー教授が「ドイツにおける狩猟」と題し森林獣害対策の現状と課題・狩猟教育について講演され、ドイツも日本と同様にシカは増加傾向にあり、トウヒやモミ等に食害が発生し、対策として植栽した苗木にプラスチック製の筒を被せたり柵を設置するなど日本と同じような対応をしているとの報告がありました。

つづいて、兵庫県立大学の横山教授が「獣害対策の現状と課題・求められる人材について」と題し講演され、ニホンジカによる深刻な農林業被害に対し、地域における人材育成に重点を置き、一般住民、行政担当者、狩猟者等様々な人を対象とした研修会を開催し、地域住民が主体となった獣害対策に取り組んでいるとの説明がありました。

講演の後は、獣害対策の担い手育成について、岐阜大学の鈴木教授をコーディネーターにワーゲラー教授ほか四名のパネリストによるパネルディスカッションが行われ、当署から松嶋総括地域林政調整官がパネリストとして参加し、狩猟免許取得後の技術的フォローが無いことや狩猟技術を学べる教育機関が整っていないことなどの課題をあげ、国有林を狩猟教育の研修フィールドとして活用することを提言しました。

パネルディスカッションで発言する松嶋総活地域林政調整官

ドイツロッテンブルク林業大学ワーゲラー教授の講演

パネルディスカッション終了後、主催者から国有林が進める捕獲事業や安全な捕獲技術など多様な視点からの議論となり奥行きのあるシンポジウムとなったと感謝の言葉をいただきました。今後も獣害対策等を通じ地域と連携した取組を推進していきたいと考えています。

「設楽地区森林整備推進協定」を締結

【愛知所】十二月六日、愛知県北設楽郡設楽町役場庁舎において、「設楽地区森林整備推進協定」締結式が行われました。

締結式では、設楽町長、愛知県新城設楽農林水産事務所長、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター中部整備局長、愛知県森林組合連合会長、愛知森林管理事務所長の五名（五機関）により協定書への署名がなされました。

本協定の目的は、民有林と国有林が連携し、森林の整備や保全、林業の生産性の向上や担い手の育成などに取り組み、木材の安定供給、県産木材の利用拡大を図り、健全で豊かな森林づくりを推進し、設楽地区周辺における森林・林業・木材産業の成長産業化に資することを目的としています。

本協定の対象区域は東三河流域設楽地区周辺の民有林約一万八千㌶、国有林約六千㌶計二万四千㌶で、協定期間は、平成二十九年度から平成三十四年度までの五年間としています。

愛知県内では、平成二十九年度に半田市の木質バイオマス発電所が稼働し、平成三十年度には豊田市で大規模製材工場が、平成三十一年度には豊橋市で木質バイオマス発電の稼働が予定されており、良質材のみならず全ての木質資源の需要増加が見込まれています。この資源の供給源として奥三河流域が期待されており、民有林・国有林関係者が連携して、川下へ木材を安定的に供給していくことが求められています。

この協定締結はスタートであり、今後各機関と連携を図り本協定の目的達成に向けた取組を推進していくこととしています。

締結終了後に記念写真

二〇一七年 主な出来事

◆1月◆

16 地方農政局・森林管理局長等会議（合同会議）（農林水産省）

17 森林管理局事業担当課長会議（林野庁）

20 中央アルプスのシカ対策シンポジウム（中央アルプス野生動物対策協議会）（南信署）

23 国有林に隣接する公共施設の確認に関する協定書締結（南木曽支署）

26 森林施業プランナー・フォレスター等合同会議（北信署）

30 森林・林業の近未来を考える集い（北信署）

31 中部森林技術交流発表会（～2／1中部局）

中部森林技術交流発表会の様子

◆2月◆

2 平成28年度第3回森林管理署長等会議（～3中部局）

9 事業担当部長会議（～10林野庁）

9 人事院総裁賞を受賞（中部局）

人事院総裁賞の授与

9 富山県砂防治山連絡調整会議（富山署）

13 国有林等に所在する公共施設の確認に関する協定締結（瑞浪市）（東濃署）

13 白山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会（金沢市）（飛騨署）

13 戸狩スキー場雪崩事故発生（北信署）

15 生産性向上プログラム取組結果発表会（～16中部局）

16 森林総合研究所、信州大学農学部、中部森林管理局、三者による「森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定」締結式（中部局）

左から沢田理事長、藤田学部長、新島局長

20 台湾テレビ赤沢自然休養林取材（木曽署）

20 広葉樹等森林資源の有効活用を考える現地検討会（名古屋）

23 高山市一色・山中山地域森林整備推進協議会運営委員会（高山市）（飛騨署）

27 中部山岳国立公園野生鳥獣対策検討会（中部局・富山署・中信署・飛騨署）

28 国有林の地域別の森林計画等検討会（中部局）

28 立山弥陀ヶ原火山防災協議会（富山署）

28 林野火災総合防御訓練（金華山国有林）（岐阜署）

◆3月◆

1 平成28年度第3回木曽悠久の森植生管理専門部会兼第2回保護林復元部会（中部局）

5 長野県消防防災ヘリコプターの墜落事故（中信署）

7 「木曽谷の野生獣害対策について」講演会（木曽署）

8 中部森林管理局・森林整備センター中部整備局連絡会議（中部局）

9 国有林材供給調整検討委員会（中部局）

9 UAV講習会（中部局）

13 治山・林道工事コンクール表彰式（中部局）

14 焼岳・乗鞍岳火山防災協議会（高山市）（飛騨署）

14 長野市若穂保科地域森林整備協定締結式（北信署）

18 信州四方山謝恩会（松本市）

21 公共事業木質土木用材活用優良事例工事受賞（野々海川2水源地域整備工事）（北信署）

21 御嶽山火山防災協議会（高山市）（飛騨署）

27 「多様な活動の森における保護・管理・利用に関する協定」、「国有林に隣接する公共施設の確認に関する協定」を締結（木祖村）（木曽署）

29 山岳科学の発展に向けた国立大学法人筑波大学、国立大学法人山梨大学、国立大学法人信州大学及び国立

表彰関係者全員

大学法人静岡大学と林野庁関東森林管理局及び中部森林管理局の連携と協力に関する協定締結（林野庁）

◆4月◆

13 平成29年度事業概要記者発表（13中部局・14名古屋事務所）

事業概要の記者発表

17 隣接する公共施設の確認地元自治体との協定締結（高山市・白川村・飛騨高山森林組合）（飛騨署）

20 清万採種園発芽調査（東信署）

25 金華山における森林ボランティア活動意見交換会（岐阜署）

29 赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー第三弾開始（～7/28ふれセン）

◆5月◆

3 「つけち森林の市」開催（～5東濃署）

10 第1回多様な森作り現地検討会（中部局）

13 愛知県植樹祭（阿久比町）（名古屋事務所・愛知所）

14 軽井沢どんぐり返し（東信署）

16 事業計画説明及び意見交換会（高山市）（飛騨署）

16 長野林政協議会第1回総合委員会・林政連絡会議（中部局）

19 飯山市井出川山腹崩落災害発生（北信署）

20 佐久地区森林祭（東信署）

22 第1回森林管理署長等会議（～23中部局）

23 「木曽式伐木運材図会」が林業遺産に認定（中部局）

24 国際ウッドフェア2017（～26長野市）

25 岐阜県議団ニホンジカ対策視察（南信署）

25 信州プレミアムカラマツブランド化名称制定記念発表会（中部局）

「信州プレミアムカラマツ」と命名記念発表会

25 木曽の国有林見学会2017春季（名古屋事務所・ふれセン）

25 長野県、飯山市と合同のヘリによる地すべり性崩壊地の緊急調査（中部局）

ヘリに乗込む飯山市長と局職員

26 林野庁長官管内視察（～28東濃署・飛騨署・富山署）

27 第46回全国林業後継者大会（黒部市）

28 第68回全国植樹祭とやま（魚津市ほか）

29 「木曽ヒノキの年輪分析から分かること」講演会（木曽署）

◆6月◆

1 平成29年度第1回技術開発委員会（中部局）

1 東御市湯の丸高原ジョギングコース・トレイルランロード整備工事起工式（東信署）

3 長野県植樹祭（長和町）（東信署）

5 鳥獣保護および狩猟に関する講習会（岐阜署）

岐阜県庁環境企画課職員の講習を真剣に聞く受講者

7 戸隠森林植物園オフィシャルサポーター協定更新調印（北信署）

8 ドローン講習会（中部局・北信署）（～9中部局）

実際にドローンを飛行させて実技講習

9 松川入地区、民有林直轄治山事業の視察（伊那谷）

12 国有林材供給調整検討委員会（中部局）

14 局・県治山事業打合会議（中部局）
14 平成29年度第1回木曽悠久の森管理委員会（中津川市）、第1回木曽悠久の森森林資源利用専門部会（～15東濃署ほか）（中部局）
17 長野地区森林（もり）と緑の祭典（北信署）
19 OWL講習会（～20木曽署）
22 森林管理局事業担当課長会議（～23林野庁）
27 富山県林政協議会（富山署）
28 飛騨地域林政懇談会（高山市）（飛騨署）
28 高山植物等保護対策協議会北信地区総会（北信署）
30 戸隠大峰自然休養林保護管理協議会（北信署）
30 木曽地区高山植物等保護対策協議会（木曽署）

◆7月◆

3 森林研究・整備機構 森林整備センター中部整備局業務検討会（講演会）（塩尻市）
4 高山植物等保護対策協議会南信地区総会（南信署）
4 信越トレイル実地調査意見交換会（北信署）
6 農林水産省富山地方支分部局連絡会議（富山署）
6 第1回中部森林管理局保護林管理委員会及び現地検討会（中信署及び飛騨署管内）（～7中部局）
7 岐阜県中部山岳国立公園活性化懇談会（郡上市）（飛騨署）
9 梨子沢災害復旧工事完成報告会（南木曽町）

報告会で紹介されたスライド

11 平成29年度第1回木曽悠久の森植生管理専門部会（～12木曽署ほか）
12 飯山市との公共施設確認協定締結（北信署）
12 愛知県国有林野等所在市町村長有志協議会（愛知所）
19 高山植物等保護パトロール実施（～8／18富山署）
20 コンテナ苗での復旧に向けた現地検討会（技セン）
21 夏休み丸太切り企画（山の日関連）（～10／31名古屋事務所）
25 学校の森・子どもサミット（愛知所）
27 岐阜県・愛知県林政連絡会議（岐阜署・愛知所）
31 森林鉄道資料展（山の日関連）（～10／31名古屋事務所）

森林鉄道資料の展示風景

◆8月◆

1 富山県地域振興団体協議会、国有林野等振興部会（富山署）
2 立山黒部世界ブランド化推進会議通信インフラ整備タスクフォース（富山署）
4 九州北部豪雨災害 山地災害緊急展開チーム派遣編成式（中部局）
4 高山植物保護管理運営協議会パトロール（東信署）
4 岐阜県中部山岳国立公園活性化地域検討会（高山市）（飛騨署）
7 九州北部豪雨災害 山地災害緊急展開チーム治山班派遣（～11中部局）
7 教職員を対象とした森林・林業学習会（ふれセン）

ほうのき峠で天然林と人工林の対比を説明

7 国有林材供給調整検討委員会（～8中部局）
9 鳥獣保護に関する講習会開催（木曽署）
11 「山の日」四方山祭りin上高地（中信署）
11 山の日・下呂市みどりの祭り（下呂市・岐阜署）（ふれセン）
11 なかつがわ「山の日（サンデー）」参加協力（東濃署）
12 生産性向上実現プログラム技術指導（SKJ）開始（中部局）
21 御嶽山火山防災協議会（上松町）（飛騨署）
22 夏休み親子体験セミナー（東海農政局連携）（名古屋事務所）

実験に見入る子供たち

24 親子体験講座（熱田区政80周年記念熱田図書館連携）（名古屋事務所）
28 九州北部豪雨災害 山地災害緊急展開チーム林道班派遣（～9／1中部局）

◆9月◆

1　中部森林管理局防災訓練　（中部局）

災害対策本部の机上訓練の様子

3　御嶽山噴火災害「濁川復旧治山工事」ほか現場見学会　（木曽署）

5　高山植物等保護対策協議会強化パトロール　（北信署）

7　富山県林政協議会（森林保全部会）現地研修会　（富山署）

12　第2回中部森林管理局保護林管理委員会　（中部局）

12　雲ノ平植生復元事業現地検討会　（〜15富山署）

12　地方農政局長・森林管理局長等会議及び森林管理局等会議　（〜13農林水産省）

14　駒ケ岳植生復元対策事業　（南信署）

20　南信地区国有林野等所在市町村長有志協議会　（南信署）

19　庁舎建替に伴う仮庁舎（旧蘭小学校）への移転　（南木曽支署）

22　飯山市木質バイオマス利用検討委員会　（〜15北信署）

24　ABMORI育苗プロジェクト　（北信署）

24　「松川の清流と自然を訪ねて」の開催（事業説明）　（伊那谷）

25　九州局派遣チーム感謝状贈呈式　（中部局）

新島局長より感謝状を贈呈

25　木の文化を支える森活動　（南木曽支署）

25　赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー第4弾開始　（〜11/7ふれセン）

26　北相木村との施設点検協定締結　（東信署）

26　林政記者クラブ国有林視察（南信署管内）　（〜27中部局）

27　佐久地域振興局と八ヶ岳合同パトロール　（東信署）

28　国有林モニター会議現地見学（北信署管内）　（中部局）

29　富山県林政協議会（林業・林産部会）現地研修会　（富山署）

◆10月◆

1　戸隠竹細工組合保全体験会　（北信署）

2　野沢温泉村との公共施設確認協定締結　（北信署）

2　国有林野等所在市町村長有志協議会木曽地区総会　（木曽署）

3　平成29年度第2回木曽悠久の森植生管理専門部会　（〜4木曽署、東濃署管内）

4　岐阜地区国有林野等所在市町村長有志協議会　（岐阜署）

5　事業担当部長会議　（〜6林野庁）

5　国有林作業現場等視察交流会（愛知所管内）　（名古屋事務所）

5　緑のオーナー友の会現地見学会　（中部局）

6　富山県地域振興団体協議会現地研修会　（富山署）

8　名古屋市熱田区「にぎわい秋まつり」に出展　（名古屋事務所）

10　北信地区国有林野等所在市町村長有志協議会　（北信署）

10　多様な森林づくりを進めるため（広葉樹の勉強会）　（岐阜署）

11　木材の利用推進要請行動（愛知県、名古屋市）　（名古屋事務所）

12　「森づくりの構想フォローアップ現地検討会」　（技セン）

13　国有林野等所在市町村長有志連絡協議会東信地区部会　（東信署）

14　北信州森林祭　（北信署）

15　糸魚川市大所キノコ祭り　（中信署）

16　木曽南部土砂防災ネットワーク議員連盟総会　（木曽署・南木曽支署）

17　県治山技術研修（講師派遣）　（中部局）

19　木曽川流域国有林野等所在市町村長有志協議会総会　（東濃署）

21　千曲川上流森林計画区地区懇談会　（東信署管内）

21　水の学び舎ツアー　（富山署）

24　木曽の国有林見学会2017秋季　（名古屋、ふれセン）

25　信州プレミアムカラマツ初出荷　（中部局）

土場に並べられた「信州プレミアムカラマツ」

25　中信地区国有林野等所在市町村長有志協議会　（中信署）
26　中部森林管理局・森林総合研究所交流発表会及び現場見学会　（〜27木曽署）
26　木材の利用推進要請行動（岐阜県）　（名古屋事務所）
26　「木づかい推進月間」協賛シンポジウム　（名古屋事務所）
27　飛騨地域木材利用推進協議会「木の日」統一行動（白川村ほか）　（飛騨署）
28　神宮式遷宮御用材斧入式　（木曽署）

斧を入れる杣人

30　神宮式遷宮御用材斧入式　（東濃署）
31　国有林の地域別の森林計画等検討会委員現地視察　（南信署管内）
31　多様な森作り現地検討会（第2回）　（南木曽支署）
31　中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会（松本市）　（中信署・飛騨署）

◆11月◆

1　木曽11宿パズルラリー開始　（〜2018/10/31ふれセン）

パズルラリーに挑戦

1　平成29年度第2回森林管理署長等会議　（〜2中部局）
2　長野県、長野県猟友会、中部森林管理局三者による「長野県内の国有林におけるニホンジカ等の捕獲推進に関する覚書」の取り交わし　（中部局）
5　長野県総合防災訓練（飯田市）　（南信署）
7　国交省砂防事務所との事業調整会議　（飛騨署）
10　富山県と合同のへリによる台風被害の緊急調査　（中部局）
10　長野県石油商業組合と災害時燃料供給に関する協定締結　（中部局）

協定締結を報告

12　木曽路トレッキングパズルラリー終了　（ふれセン）
15　庁舎耐震工事竣工　（東信署）
16　100年先の森林づくり発表会　（岐阜署）

100年先の森林づくり発表会の様子

17　大鹿村老人クラブ現場見学会　（伊那谷）
18　東御市湯の丸高原ジョギングコース・トレイルランロード整備工事竣工式　（東信署）
20　中信木材センター開設50周年・1000回記念市　（中信署）
21　中部森林管理局国有林野等所在市町村長有志協議会連絡協議会　（中信署）
21　森林総合監理士等連携会議　（〜22木曽署）
22　林野庁経営企画課長視察　（東信署管内）

25　木曽川と堀川・上下流をつなぐ交流会　（名古屋事務所）
28　各県合同治山事業連絡調整会議　（中部局）
29　新任労働基準監督官の実地訓練　（岐阜署・技術セ）

◆12月◆

1　国有林材供給調整検討委員会　（中部局）
5　局長講演会「これからの地域林業の発展に向けて」（信州大学農学部講堂）　（南信署）

局長講演の様子

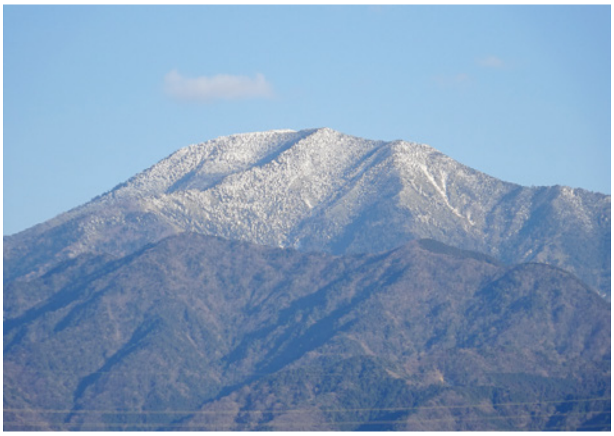
6　東三河流域設楽地区森林整備推進協定締結式実施　（愛知所）
15　白山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会（金沢市）　（飛騨署）
18　国有林モニター会議局会議　（中部局）
19　国有林野内におけるニホンジカ等の捕獲に関する協定締結　（木曽署）

シリーズ「森林官からの便り」

［東濃森林管理署恵那森林事務所］

森林官　安藤達也

恵那森林事務所は、岐阜県の南東部に位置する中津川市にあり、管轄する国有林は、恵那山から南西の阿木地区（一部平谷村）までの約四、九〇〇haで、治山事業を主体とした落合恵那、登山や観光等地元に接している国民に近い中津恵那、人工林を中心とした木材生産事業主体の阿木恵那の三つの国有林を管理しています。土質は真砂土が多く、軟弱な箇所がほとんどです。


雪化粧の恵那山

中津川市内からは、雄大且つ麓の国民を守るがごとく構える恵那山（二、一九一m）を仰ぎ見ることができます。恵那山は、岐阜・長野の両県において県立自然公園に指定され、岐阜県側は胞山県立自然公園として、保護されています。

恵那神社と夫婦杉（奥）

この胞山とは、恵那山の古い名で、伝説では伊邪那岐・伊邪那美の大神が美濃の地へ入られた折に天照大神を産んだ際の胞衣（胎児を包んだ膜や胎盤）をこの山に納めたといわれ、胞衣山から恵那山とされたとのことです。その他にも、南西方向からは舟を伏せたような山様から船伏山とも呼ばれ、遠くは伊勢湾からも望むことができたといわれています。近代ではウォルター・ウェストンが前宮ルートから登頂し、深田久弥の百名山にも挙げられています。

麓には伊邪那岐・伊邪那美の夫婦神をまつる恵那神社があり、境内には両神を象徴するかのように夫婦杉（樹齢六～八百年）が鎮座しています。子宝・安産の御利益があるといわれ、古くは延長五年（九二七年）の「延喜式神名帳」に記載された由緒ある神社です。また、神社のある集落川上では、三百年ほど前から人形浄瑠璃が伝わっており、昭和六十一年に県の重要無形民俗文化財に指定されて以降、「恵那文楽」として保存されています。

伝統あるこの地は、中山道の宿場町としても栄え、今もその町並みが残っています。また、平成三十九年開通予定のリニア中央新幹線六駅に中津川が指定されるなど、新しい風が吹こうとしています。

管内は先のとおり脆弱な土質であり、山を育ててこられた先人方々の苦労が忍ばれます。故にその山を如何にして保全しながら収穫量を確保していくか、コストをかけず多様な森林に仕立てていくかは大きな課題です。また、私が赴任した頃から目に見えてニホンジカが増えているようです。顕著な被害は確認されていませんが、昨年度から実施しているセンサーカメラによる観察では、ニホンジカの庭かと思われる光景に、獣害駆除事業の重要性を感じています。

恵那神社に奉納される恵那文楽

課題は多くありますが、日々それらと向き合い、協力しあう四名（森林官、森林技術員一名、行政専門員二名）と建物を同じくする中津川治山事業所の二名の仲間がおります。森林官として業務や安全衛生について指示をする立場ではありますが、現場や日々の仕事では教えを請い、助けてもらうことも…の方が多い毎日です。これからもチームワークと助け合いの心を持って日々取り組んでいきたいと思います。

秋も深まり、雪の季節を迎えますが、中津川市近隣はまだ栗きんとんの季節です。市内の和菓子店はどこも自店の味を作り上げ、切磋琢磨しており、どの栗きんとんを食べるか迷うところですが、そこは産地。期間限定ですが食べ比べセットなども販売されています。栗きんとんの季節にお越しの際は是非お試しいただき、マイフェバリットを見つけてはいかがでしょうか。

恵那森林事務所、中津川治山事業所の仲間
（筆者：後列右）

ご当地自慢

ひのきの里・あげまつ 58

木曽森林管理署

「ひのきの里」上松町は、長野県南西部に位置し、町の東部には木曽山脈の木曽駒ヶ岳、木曽川を挟んで西部には阿寺山地が広がります。良質な木材として知られる木曽ヒノキは古くから寺社仏閣建築に重用され、木曽ヒノキなどの木材を扱う商人達の町として栄えてきました。今回のご当地自慢は大相撲で活躍中の御嶽海関の出身地でもある「ひのきの里上松町」の見所を紹介します。

赤沢自然休養林を走る森林鉄道

◇姫淵

平安時代、平氏打倒を決意した以仁王（後白河天皇の第三皇子）は、京都での戦いに敗れ東国の山奥へ逃れた。それを聞いた娘の姫宮は父（似仁王）の後を追った。道中の上松で平氏に落人と見破られ、襲撃を逃れた姫宮は麻畑に身を隠したが、土地の民は姫宮をかくまったことによって自分たちにも被害が及ぶことを恐れ、やむなく姫宮を追い返してしまった。姫宮は平氏から逃れるため山奥まで逃れてくると、水量が多くとても渡れそうにない川にたどり着いたが、持っていた麝香袋の匂いで追っ手に見つかってしまう。もう逃げ切れないと悟った姫宮は、逃げてくる途中で見た田園風景を思い出しつつ、里の娘達が唄っていた田植え歌を見よう見まねで唄い、その美しい声のこだまが消えないうちに、自ら深い淵に身を投げた。以来、その淵は姫淵と呼ばれるようになった」との悲しい伝説が残っています。

姫淵（上松町官観光協会提供）

◇寝覚の床

木曽川の流れが花崗岩を削ってできた自然地形で、巨大な白い岩肌とエメラルドグリーンの川面とのコントラストが見事です。また、浦島太郎がこの場所を気に入って住み着いたとの伝説も残っています。絶好の写真スポットですので、ぜひ足を運んでみてください。

寝覚の床（晩秋）

◇木曽路美術館

木曽唯一の美術館で、歌川広重と渓斎英泉の合作による「木曽街道六拾九次」等、木曽に関係する浮世絵、地元の作家の彫刻や絵画や陶磁器など、日本的な作品を展示しています。美術館入り口の右側には、二〇一六年九月に観光拠点「ねざめ亭」が開設されました。レストランや寝覚の床を一望できるベランダ、木曽の特産品販売コーナー（木曽ヒノキの風呂桶も）がありますので、ぜひお立ち寄りください。

木曽路美術館入り口

「寝覚の床」撮影スポット（ねざめ亭）

木曽ヒノキの風呂桶

◇木曽の桟（かけはし）

中山道一の難所といわれた場所で、木曽川の絶壁に差し込んだ丸太の上に板を組み、藤づる等で結わえた桟道であったそうです。木でできていたため、一六四七年、通行人の松明で燃え落ちてしまったことから、尾張藩が石垣と三つの木橋を完成させ、その後、江戸時代中期（一七四一年）と明治十三年（一八八〇年）の改修で木橋下の空間はすべて石垣となりました。一九一一年に旧国鉄中央線工事のため木橋も取り除かれ石垣のみとなり、一九六六年の国道改修工事に伴い、県の史跡として石垣の一部が保存されました。現在も旧国道十九号線の下に昔の姿を残しています。

現存する旧国道下に残る石垣（木曽の桟）

○寝覚の床へのアクセス

・公共交通機関
JR中央線上松駅からバスで五分
（下車徒歩十分程度）
・自動車
中央道中津川ICから車で六十分、
中央道塩尻ICから車で七十分